

歴史から考える税金


山形県立東桜学館中学校教諭 1学年 鈴木 誠

実施年月日：令和元年12月 98名

1 実践計画・指導のねらい

中学校では、3年の公民分野で租税学習を本格的に行う。歴史的分野でも税のこについて学習しているが、その時代を学習する際に少し触れる程度であり、系統的な学習はしていない。今の社会のシステムには必ず歴史がある。税の起源となる歴史に触れ、系統的に学ぶことで、3年で公民の学習がより深まると考えた。1学年では、室町までの歴史の学習を行った後に、税にスポットを当てた単元をつくり学習した。歴史を振り返ることで現代社会の税を見つめなおすことができるようにしたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
課題：税の歴史から現代の税について考えよう。		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定と情報収集・整理 室町時代までの歴史の中で、税に関することをピックアップして時系列に整理し、ロイロノートにまとめる。（グループ） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原始から中世までの歴史で税に関することを調べ、整理しよう。 ● いつから税って始まっているのか？ ● 四大文明でも税ってあったのか？ ● 年貢と税の違いは？ ● 土倉や酒屋が幕府に払っていた税って何？ □使用教材 教科書「中学生の歴史」（帝国書院） 資料集「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） ロイロノート・スクール（LoiLo）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発表と情報整理・分析 調べたことをお互いに発信し、交流する。新しく得た情報を整理・分析する。（グループ） ・まとめ・表現・振り返り 課題に対する自分の考えを書く。この単元の振り返りをする。（個） <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたことをグループごとに発表しよう ● 邪馬台国でも税があった。 ● 大化の改新から租庸調の制度を導入したが、実現するのにかなり時間がかかった。 ● 墾田永年私財法によって、税を納める対象が変わった。 ● 室町時代では土倉や酒屋は貨幣で税を払っていた。 ○ 課題に対して自分の考えを書こう。最後にこの単元の振り返りをしよう。 ● 税の目的や使われ方が時代によって違う。 ● 古代は支配者に対して納められていたのが、現在は国民のために政府が徴収している。 ● 室町時代以降の税の歴史も調べてみたい。 □使用教材 副教材「私たちの暮らしと税」 教科書「中学生の歴史」（帝国書院） 資料集「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） ロイロノート・スクール（LoiLo）

【指導のポイント】≪1時間目≫

今まで学習した内容をただ羅列するのではなく、難しい内容にも挑戦させる。税の対象者や使い方についても考えさせる。

【指導のポイント】≪2時間目≫

歴史と現代社会を比較することにより、今の税制度について深く思考できるようにする。この学習だけでなく、来年の学習に向けた展望をもつようにする。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ これまでの歴史の学習を違った方向から見るにより、社会を多角的・多面的に見ることができるようになった。起源や理由、目的や対象者などを調べることで、税を深く知ることができた。
- ◎ 税の目的や使われた方を今と昔で比較することで、現代社会の税の意味を知ることができた。
- ◎ 税を調べると高校レベルの用語にも触れることになるので、中高一貫校としてこのような単元構成も必要であることがわかった。
- ◆ 来年度も同じように行わないとつながらない。歴史の学習終了後、税の歴史を扱うことができるように年間計画の中に入れていきたい。